

朗読劇

銀河鉄道の夜

古川日出男

菅啓次郎

小島ケイタニイラズ

柴田元幸

一匹のさそりを天に、  
一匹のいたちを地に、  
ジヨバンニやカムパネルラや〈あなた〉や〈わたし〉や、  
九月の気層のレールを美術館に。

# 銀河鉄道の夜

## 朗読劇

### 世田谷美術館 パフォーマンス・シリーズ「トランス／エントランス」vol.16

「トランス／エントランス」は2005年にスタートした、世田谷美術館のエントランス・ホールで展開する実験的なパフォーマンスシリーズです。アール(曲線)を描く吹き抜けの天井や、大理石の大階段などからなる独特な空間と対話し、また美術館という場の意味や歴史にもインスピレーションを求めながら、アーティストたちが冒険心あふれる作品を生み出しています。

第16回は、ダンスの多かった本シリーズとしては異色の「朗読劇」です。宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を引用しながら書かれた古川日出男の脚本、そこに小島ケイタニーラブの音楽と歌、管啓次郎の詩、柴田元幸の英訳テキストが加わり、また2011年12月以来7年にわたって、東北をはじめ全国20箇所まで上演され、作品はしなやかに変容を続けてきました。私たちひとりひとりの身体に埋め込まれた記憶、その忘却と再生、死者たちとの対話に誘う『銀河鉄道の夜』。4年ぶりの東京、晩夏の公園、その一隅にある世田谷美術館から、新たに発車します。

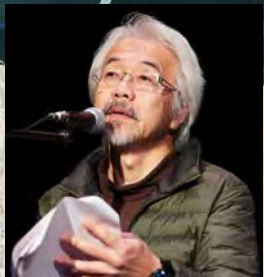
あなたが宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を知っているが知ってまいが、原作の『銀河鉄道の夜』を読んでいようが読んでまいが、それは、どうでもいいのです。なぜならば、この朗読劇は、宮沢賢治のそれを「生まれ変わらせて」「そこに出現させる」ものだから。2011年12月に出発して、全国のほんとうに各地を回ってきた朗読劇だから、まるで空間を移動しつづけたように思えるけれども、それだけではないのです。2011年12月に出発して、時には息もたえだえになりながら走りつづけて、もう2018年9月になるのですから、時間も移動してきたのです。むしろ7年間という時間を(空間ともども)貯めてきたのです。宮沢賢治の描いた「銀河鉄道」には、その沿線にプリオン海岸なるものがある、その波打ち際に、レールを敷ければと願っています。鉄道線路を、その渚に、夜の美術館のために。銀河鉄道の夜の、美術館のために。(入口)に。

—古川日出男



古川日出男 (ふるかわ・ひでお)

1966年生まれ。小説家。主な著書に『馬たちよ、それでも光は無垢で』(新潮文庫)、『LOVE』(新潮文庫、三島由紀夫賞)、『ベルカ、吠えないのか?』(文春文庫)、『アラビアの夜の種族』(角川文庫、日本推理作家協会賞・日本SF大賞)、『聖家族』(新潮文庫)、『南無ロックンロール二十一部経』(河出書房新社、鮭見文学賞)、『女たち三百人の裏切りの書』(新潮社、野間文芸新人賞・読売文学賞)。戯曲に『冬眠する熊に添い寝してごらん』(新潮社)、古典からの現代語訳に『平家物語』(河出書房新社)。最新刊は『ミライライ』(新潮社)。  
<http://furukawahideo.com/>



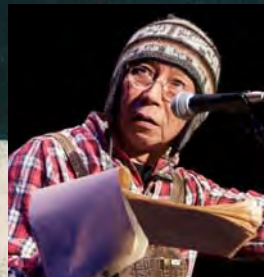
管啓次郎 (すが・けいじろう)

1958年生まれ。詩人、比較文学者、明治大学教授。主な著書に『コンプスの犬』『(河出文庫)、『斜線の旅』(インスクリプト、読売文学賞)、『野生哲学 アメリカ・インディアンに学ぶ』(小池桂一との共著、講談社現代新書)など。2011年、野崎欽とともに『ろうそくの炎がささやく言葉』(勁草書房)を編集。詩集に『Agend'Ars』4部作、最新作は『数と夕方』(すべて左右社)。最近の訳書に、ル・クレジオ『ラガ 見えない大陸への接近』(岩波書店)、エイミー・ベンダー『レモンケーキの独特なさびしさ』(角川書店)。  
<http://monpaysnatal.blogspot.jp>



小島ケイタニーラブ (こじま・けいたにーらぶ)

1980年生まれ。音楽家。これまでにミニアルバム『小島敬太』(HEADZ)、フルアルバム『It's a cry run.』(スイッチ・パブリッシング)を発表。『NHK みんなのうた』にて楽曲『毛布の日』を制作した他、日テレ・読売テレビ系列「遠くへ行きたい」主題歌やミスタードーナツCM『ドレミの歌』の歌唱など多数。2018年5月、プロデューサーにゴンドウトモヒコを迎え、フルアルバム『はるやすみのよる』を愚音堂/SPACE SHOWER MUSICよりリリース。2018年より活動拠点を中国に移す。  
<http://www.keitaney.com>



柴田元幸 (しばた・もとゆき)

1954年生まれ。翻訳家。芸誌『MONKEY』編集長。ポール・オースター、ステューヴン・ミルハウザー、レベッカ・ブラウン、トマス・ピンチオン、エドワード・ゴーリー、スチュアート・ダイベック、ステューヴ・エリクソンなど多数の現代アメリカ作家を翻訳。最近の訳書にレアード・ハント『ネバーホーム』(朝日新聞出版)、マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』(研究社)など。

出演：古川日出男、管啓次郎、小島ケイタニーラブ、柴田元幸  
音響：川島寛人、北田啓(RIME株式会社) 照明：富山貴之

記録写真：朝岡英輔 記録映像：河合宏樹 広報：浦谷晃代 制作補助：関戸詳子 宣伝美術：柊田透(nix graphics)  
制作・主催：世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団) 運営：NPO法人アートネットワークジャパン

日時：2018年9月29日(土)・30日(日) 19:30開場 20:00開演

会場：世田谷美術館 エントランス・ホール (〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2)

定員：各日約90名

料金(予約・当日とも)：一般3,000円/大学生1,500円(高校生以下無料、ただし未就学児のご入場はご遠慮下さい)/立ち見2,000円

予約：2018年8月1日(水)10:00より受付

web予約=世田谷美術館ホームページの申込フォームより <https://www.setagayaartmuseum.or.jp/event/>

電話予約=世田谷美術館 03-3415-6011 (10:00-18:00、月曜休、ただし9月17日(月・祝)・24日(月・振替休日)は開館、9月18日(火)・25(火)は休館)



## 世田谷美術館

Trance/Entrance SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2  
Tel. 03-3415-6011 (代)  
<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

展覧会 企画展「向井潤吉 人物交遊記」 ミュージアム コレクションII「東京スケイプ Into the City」  
情報 2018年9月8日(土)~11月4日(日) 2018年7月21日(土)~10月21日(日)

●東急東横線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分  
もしくは美術館行バスA「美術館」下車徒歩3分  
●小田急線「成城学園前」駅南口から渋谷行バスB「砧町」下車徒歩10分  
●小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バスC「美術館入口」下車徒歩5分  
※お車で越しの方は、美術館東側の「砧公園有料駐車場」をご利用ください。

